ISSN1881-2848

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2019.7 Vol.34

令和1年7月発行
発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
https://www.suac.ac.jp/library/

Contents

■表 紙
『都名所圖會』 ❶

■図書館散歩
身体は本でできている ❷
国際文化学科 教授
武田 好

私のお薦め図書
『トーラーの知恵』 ❸
文化・芸術研究センター 教授
石本 東生

■知っていますか？こんなサービス
学生購入希望（リクエスト） ❹

■巻 末
図書館ニュース ❽

都名所圖會 巻之一～巻之六 秋里湘夕撰；春朝齋竹原信繁畫
吉野屋爲八、安永9［1780］年　静岡文化芸術大学蔵 和田文庫 貴重書庫 ［291.1/A 36］

名所図会は、江戸時代後期以降に盛んに刊行された地誌です。寺社・旧跡・地名・景勝地などの由緒来歴や、街道・宿駅・河川などの案内を平易に解説し、実景描写の挿絵が多数掲載されています。『江戸名所図会』、『東海道名所図会』など様々な図会が刊行されましたが、中でも特に人気を博したのが、今回ご紹介する『都名所図会』です。

『都名所図会』は、京都の洛中洛外、近郊の名所を扱った、いわばイラスト入りのガイドブックです。特徴として、神社・仏閣などの鳥瞰図が数多く載っていますが、それ以前の名所記の挿絵には、これほど詳しい鳥瞰図は収載されていませんでした。また、本書には当時の風俗や人々の生活を描いた絵図が多数掲載されていて、その頃の社会や世相を垣間見ることができます。

本文を執筆したのは京都の俳人、秋里籬島で、湘夕（しょうせき）は彼の字（あざな）です。『都名所図会』のほか、各地を取材旅行して多くの名所案内書を出版し、挿絵入り軍記物語や俳諧入門書なども著しました。絵師の竹原春朝齋は、大坂の浮世絵師で、名は信繁です。『世間化物気質』など浮世草子や狂歌本の挿絵を手がけました。また、本書のほか各地の図会を描き、名所図会の形式を開拓しました。

刊行当初、本書の売れ行きは芳しくありませんでしたが、大坂城代であった若桜小浜の藩主、酒井候が所用で江戸に参向した際、親類縁者への土産として本書を持参したところ大評判となり、その翌年から年に4千部も売れるベストセラーになりました。世上の評判を得て、摺刷に摺刷を重ね、遂には板木が摩損したため、新たに版を刻して再刻本を出版するに至ったのです。

参考文献：国史大辞典編集委員会[編]『國史大辭典』［210.03/Ko 53］
上田正昭ほか[監修]『講談社日本人名大辞典』［281.03/N 71］
宗政五十緒[編]『都名所図会を読む』［281.03/N 71］

図書館散歩

国際文化学科 教授
武田 好
Takeda Yoshimi

身体（からだ）は本でできている

小さい頃、ピアノの下が秘密基地で、膝の上に百科事典を抱え込んで頁を捲るのが好きだった。背表紙にある見出し語のカヵーケンが暗号めいていて、自分では持てないほど重いけれど大きな宝箱の塊に見えた。絵具を使って真似していたのがカンディンスキーの絵と知ったのは、ずいぶんあとになってからのことだった。

『ファーブル昆虫記』『源平盛衰記』『十五少年漂流記』『海底二万里』が小学生の頃のバイブルである。図書委員になると図書室の鍵を任されて、おかげで好きなときに好きなだけ本を読むことができた。『白い牙』で動物文学というジャンルがあることを知ったのも、たぶんその頃である。繰り返し読んだのは『ギリシア神話』で古代の神々は恋愛もすれば嫉妬もするのだと妙にうれしかった。そのうち姉の書棚にある世界文学全集を片端から読むようになった。隙間なく並んだ棚から取り出して布張りの表紙を開くと、紙とインクの湿った匂いが脳に届く。そこからはもう自分だけの世界である。

長い夏休みに読むのは文学で、塾帰りの電車の中でよく読んだのは推理ものだった。天王寺の駅ビルと阿倍野筋に書店があって、毎週友だちと立ち寄るのが習慣になっていた。これ読んだ、あれ読んだと互いに言い合いながら文庫本コーナーをめぐるのである。露文学は登場人物の名前を覚えるのに四苦八苦して、英文学でぱっと思い浮かぶのはヒースの丘である。ヨーロッパの近代社会へ近づいた一歩かもしれない。推理ものはエラリー・クイーンが好みで『Yの悲劇』『エジプト十字架の謎』は今でも時折思い出す。

高校1年生のとき、母校の記念講演に来た開高健氏の話を聞く機会があった。仰々しい横断幕を背に「これとは違う話をします」と進駐軍について語り出した人柄に惹かれて、それ以来、氏の本を愛読している。『輝ける闇』はある意味、人生観の核となったかもしれない。芬々たる体液の匂い漂う描写は、後年、カラヴァッジョを観たときに似た感情を持った。ただし、国外に出かけるときに携行するのは今も『オーパ！』のシリーズである。世界を漫遊し、魚と戯れたいならぜひ一読を。

同時期に何度も読んで韻律が体に染みついているのは、西脇順三郎の『旅人かへらず』で、地中海への憧憬は彼の語彙の連なりにさかのぼるのだと思う。陽が傾きかけた頃にヴェネツィアの街を歩いていて、その詩の一文が眼前に現れた瞬間があった。開高風に言うならば、まさに明滅したとでも言おうか。

『青い麦』『ポールとヴィルジニー』『悲しみよこんにちは』『無関心な人びと』は好きだった。特にサガン、モラヴィアを並べて、ちょっと怠惰な上流階級の暮らしぶりに想像力を膨らませた。その一方で、『アイガー北壁』『強力伝』『レイテ戦記』の持つ世界観に憧れた。

当時の待ち合わせ場所と言えば、梅田にある大型書店だった。携帯のない時代だから、確実に人と会えて時間をつぶせる場所は貴重だったのである。哲学・歴史書あたりはいつも空いていて、本を探しているうちに友だちと会える。お目当ての本がないとまた別の書店に行って探す。たいていはどちらかの店で見つかるのだが、みんな何階のどの売り場で、どの人にたずねたら教えてくれる、と知っていた。すこし本の並びが変わると、それが情報となって伝わった。

書店ビルの上りはエスカレーターがあったが、下りは階段で、降りるうちにどんどん人が増えていって、そこでまた誰かと出会う。薄暗い階段の壁一面に展覧会や演奏会のポスターが貼ってあって、それが大切な情報源だった。今思えば懐かしい。

イタリア留学中に仲のよかったスコットランド人とヴェリズモ（真実主義）についてよく論じ合った。帰国後、ヴェリズモ作家ヴェルガの小説・戯曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』とマスカーニの同名歌劇の台本を翻訳し、幾度もシチリア島に赴いたのは、その経験が常に心中にあったからだと思う。

『新しい女性の創造』は、様々に考えさせてくれる一冊だった。『文明の衝突』と併せて再読したいと思っている。自らの人生を顧みるのは少々恐ろしいが、女性を、そして日本を取り巻く状況はどう変わっただろうか。『君主論』は当時さっぱりわからなかったが、マキァヴェッリが亡くなった年齢を超えてから、少しは物事の本質が見えるようになったかもしれない。

今、令和の時代に読むのなら『教養としての世界史の読み方』を勧めたい。平易な文体であるものの、行間に見え隠れする背景は重い。現在、地球上にある事象を、歴史、政治、経済の観点から地政学的に俯瞰できるだろう。

さて、SUACに移って5年が過ぎた。前任校を退職するとき、同僚の先生方が記念の品をくださった。それはなんと、ストーム・グラスだった。『海底二万里』の潜水艦に搭載された代物である。いま研究室にあって明日の浜松の天気を占ってくれている。その後の愛読書については、さあ、ストーム・グラスを見ながら共に話すことにしよう。

本文に関連する図書

開高健[著]
『輝ける闇』
913.6/Ka 21

開高健[著];高橋舜[写真]
『オーパ!』
915.6/Ka 21

西脇順三郎[著]
『旅人かへらず』
911.56/N 87

ベルナルダン・ド・サン=ピエール[著];鈴木雅生[訳]
『ポールとヴィルジニー』
953.6/Sa 22

フランソワーズ・サガン[著];朝吹登水子[訳]
『悲しみよこんにちは』
953.7/Sa 15

アルベルト・モラヴィア[著];大久保昭男[訳]
『無関心な人びと』
973/Mo 41

新田次郎[著]
『アイガー北壁』
913.6/N 88

大岡昇平[著]
『レイテ戦記』
913.6/O 69

ベティ・フリーダン[著];三浦冨美子[訳]
『新しい女性の創造』
367.2/F 47

サミュエル・ハンチントン[著];鈴木主税[訳]
『文明の衝突』
319/H 98

武田好[著]
『イタリアオペラを原語で読む
カヴァレリア・ルスティカーナ』
766.1/Ta 59

マキァヴェッリ[著];池田簾[訳]
『君主論』
311.237/Ma 16

マキァヴェッリ[著];藤澤道郎、武田好[訳]
『マキァヴェッリ全集5 使節報告書』
310.8/Ma 16/5

本村凌二[著]
『教養としての世界史の読み方』
209/Mo 86

文化・芸術研究センター 教授
石本 東生
Ishimoto Tohsei

私のお薦め図書『トーラーの知恵』

今回私が紹介する図書は、エルサレムにてユダヤ教正統派の家庭に生まれ育ち、ユダヤ教のラビ（宗教的指導者）そしてネゲブ・ベングリオン大学の教授としても活躍したピンハス・ペリー（1930〜1989年）の名著『トーラーの知恵』である。本書は著者がイスラエルの英字新聞『エルサレム・ポスト』に毎週書き下ろしたエッセイを集め、1986年米国にて出版した単行本“TORAH TODAY”の邦訳版である。何と発刊後1年も経たずに4版を重ね、ポルトガル語、オランダ語、フランス語、スペイン語、イタリア語などに翻訳されるほど、宗教書としては異例のミリオンセラーとなった。

ところで、日常私たちにとって「ユダヤ教」との接点は殆ど皆無に近い。本書のタイトルにある「トーラー」という名称も、まず聞き慣れないものである。この言葉は数多くの意味を含んでいるが、端的には、①旧約聖書の最初の5書、「モーセ五書」とも言われる成分律法、②人生の本質は何か、またそれをどのように生きるべきかに関する（現在に至るまでの）ユダヤ教の一切の「教え」、と説明できる。

すなわち、トーラーとは「閉じられた箱詰めの知恵として後世に伝えられてきたもの」だけではなく、むしろ開かれた「永久に続く対話」である。ユダヤ教におけるこの「対話」は実に興味深い。その一例として、ユダヤ教の営みの中で特筆すべきものに「パラシャット・ハシャヴア」（今週の部分）がある。それは、伝統的に世界中のユダヤ教徒はトーラー（モーセ五書）のすべてを1年かけて読み終えるのだが、週ごとに読むべき箇所が決まっている。このように毎週彼らが朗読するトーラーの部分をヘブル語で「パラシャット・ハシャヴア」と呼び、永遠にその朗読を繰り返していくのである。

現在でも、ユダヤ教学院のみならずユダヤ教徒の家庭でも、「今週の部分」について深く時に熱烈に語り合っている。ここで注目すべきは、彼らユダヤ人は過去歴史上の偉大な聖書注解にとらわれることなく、時事問題や日々の暮らし、自身が抱える苦悩など、現実のすべてにトーラーの言葉を照らして語り合う点である。よって、時に突拍子もない議論にもなりかねない。しかし、それさえも厭わない自由な対話が展開され、結果、毎年トーラーの聖句は新鮮な表情でユダヤ教徒一人ひとりの前に立ち現れる。本書は、著者ラビ・ピンハス・ペリーが、毎週の朗読箇所を多数の注解書を参考に研究を重ね、加えて安息日毎に家族で食卓を囲みつつ、ある時はゲストとの語り合いの中から産み出されたガイダンスである。

さて、トーラーに関する本書の魅力的な解釈を一部取り上げてみよう。創世記第18章の冒頭に「アブラハムの天幕」とも呼ばれる箇所がある。アブラハムは言うまでもなく、「ユダヤ民族の父祖」として高く崇敬されている。またユダヤの伝統においては「ハクナサット・オルヒーム（見知らぬ人や旅行者への親切なもてなし）」の徳の模範ともみなされている。この創世記第18章の件は以下のような内容である。

真夏の日差しが強いある日、アブラハムはある樫の木の陰に天幕を張り、その入り口に座っていると、主（神）が彼の前に現れた。一方、彼が目を上げると、3人の旅人が彼に向って近づいてくるのが見えた。アブラハムは、見知らぬ旅人にもかかわらず、その3人が自分のところまでやってくるのを待ちきれず、天幕の入り口から駆け出して挨拶をしたのである。彼は大地に平伏して、自分の天幕を訪ねてくれるように請い求め、手厚く歓待した。ある伝統的な注解には、この時アブラハムはその客人がアラブの遊牧民であったと信じる正当な理由があるとも説いているが、まさにユダヤの父祖による「おもてなしの真心」が描かれている箇所だ。

ピンハス・ペリーはこの箇所について、次のように解釈している。アブラハムは樫の木の陰で面前に現れた神ご自身にまみえていたにもかかわらず、長い道のりに疲れた3人の旅人に気づくや否や、「神様を待たせて」彼らに向かって走り出した。さらに「客人をもてなすことは、神の臨在を受け入れるより位が高い」というタルムード（紀元3〜6世紀のユダヤ教賢者による注解書）の解説も援用しながら、神ご自身も旅行中の旅人のために待たされることは気に留めないが、旅人は飢えと渇きのために待つことができない。すなわち、アブラハムによる「人優先」の行動は、むしろ神を喜ばせる行為であったと結論付けている。実に型にはまらない大胆な解釈である。

私は、日本で学部卒業直後に、旧新約聖書の歴史的舞台であるイスラエルへ遊学し、約1年半、可能な限り聖書の舞台を訪ね歩いた。私はある週末にヨルダン川西岸地区のパレスチナ人自治区内を路線バスで訪ね、創世記第28章に描かれた「ベテル」という地を目指していた。バスを乗り継ぎやっとその地に辿り着いたのは、金曜日の夕刻。私は陽も落ちゆくユダの荒野で途方に暮れていた。そこでたまたま出会ったのがヨセフというユダヤ人入植者の高校生。彼はまず見ることもない日本人の私に声をかけ、宿もなく困っていた私を自宅へ招き、その家族ともに翌日まで驚くようなもてなしをしてくれた。その間、敬虔なユダヤ教徒の安息日の過ごし方を私自身もしっかりと学び、体験することができた。そして同時に、ラビ・ピンハス・ペリーの自由大胆な解釈が、我が身において現実となったことを実感し、感動に震えたのを今もなお鮮明に覚えている。

その他、ユダヤ教に関するお薦めの図書は、同頁のリストの通りである。

本文に関連する図書

ラビ・ピンハス・ペリー[著];
手島勲矢、上野正[訳]
『トーラーの知恵:
現代を生きるためのユダヤ人の聖書観』
193/P 36

モリス・アドラー[著];河合一充[訳]
『タルムードの世界』
199/A 16

ハーマン・ウォーク[著];島野信宏[訳]
『ユダヤ教を語る』
199/W 91

ミルトン・スタインバーグ[著];
山岡万里子、河合一充[訳]
『ユダヤ教の基本』
199/St 3

手島勲矢[編著]
『わかるユダヤ学』
227.9/Te 83

H.N.ビアリクほか[編];
ミルトス編集部[編訳]
『賢者たちの「聖書」伝説』
193.1/B 41

ヨッシー・クライン・ハレヴィ[著];
神藤誉武[訳]
『わが親愛なるパレスチナ隣人へ:
イスラエルのユダヤ人からの手紙』
227.9/Kl 4

知っていますか？こんなサービス

学生購入希望(リクエスト)

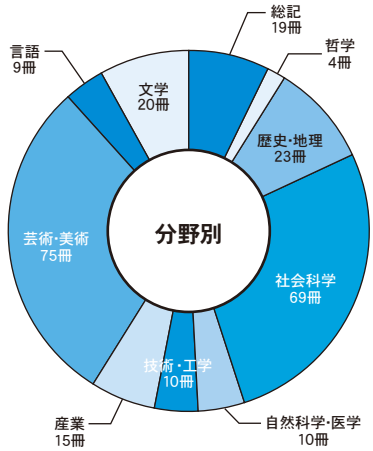
図書館・情報センターを利用していて、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか？

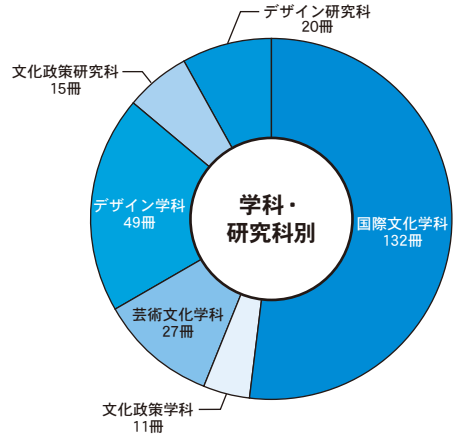
そのような時は、学生購入希望（リクエスト）を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書（3 枚綴）」に必要事項（図書の情報など）を記入して、カウンターに提出してください。

★学生購入希望（リクエスト）について

・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。　・2018年度は6〜7ページ掲載の254冊を受け入れました。
・絶版や品切となっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。　・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
その他、学生購入希望の申込についてわからないことがありましたら、カウンターでご相談ください。

■2018年度の購入実績





学生購入希望(リクエスト) で購入した図書のご紹介

『箱の中の天皇』

赤坂真理 [著]
河出書房新社 , 2019.2
[913.6/A 32]

天皇は不思議な存在です。「天皇は、日本国の象徴であり日本国民の象徴であって、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く」※。先ず「象徴」って何だとなります。「総意に基く」とありますが、私は天皇に特別な思い入れがなく、象徴だと考えたこともありません。報道されるときは敬語が使われます。下手なことを言うと不敬だと言われます。何だか知らないけど偉いとされている人、理由は分からないけど人気がある人、それが天皇に対する私の理解でした。

『箱の中の天皇』は「天皇とは何か」がテーマの小説です。主人公のマリはメアリという女性から箱を2つ手渡されます。箱の中身は皇祖で、メアリはその守り人だと言います。2つの箱の内1つは偽物、それをマッカーサーの持つもう 1 つの本物の箱とすり替えてもらいたいと頼まれます。マリは現代の女性ですが、1946年に入りマッカーサーと会います。

主人公は老人施設で傾聴ボランティアをしています。箱の一件から天皇とは何かと考えるようになりました。「天皇って何だと思いますか」。傾聴の相手、道子さんに尋ねます。道子さんは4歳の頃に天皇に会ったことがあると答えました。そして面白い番組を見ようと言ってテレビをつけると、平成天皇が2016年に退位表明したときの映像が映ります。道子さんは「わたしが好きだったあん人」と天皇を指差します。「先代では」と言うマリを制し「あん人たい」と言い切ります。

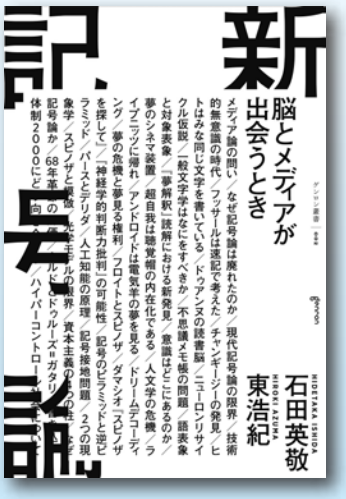
主人公は日本国憲法の草案作りに関わった占領軍の霊と共に、平成天皇が退位表明のスピーチをしている前に座ります。マッカーサーはそこで占領時にアメリカが持っていた天皇観について語ります。反感を覚えた彼女はそれを口にしますが、マッカーサーの話にも一理あることを認めます。マリは天皇とも対話をします。対話とは相手の意見を聞き、自分の考えを述べ、互いの新しい着地点を見つける試みです。マッカーサー、天皇との対話を通し、「象徴天皇とは何か」が明らかになっていきます。天皇って何だとモヤモヤしたものを持っている人にお勧めの一冊です。

※　日本国憲法第1条

【文化政策学部 国際文化学科 2年　田野 聖一】

『新記号論：脳とメディアが出会うとき』

石田英敬 , 東浩紀 [著]
ゲンロン , 2019.3
[104/I 72]



著者である東浩紀さんのことを知ったのは、朝日新聞が発表した「平成の30冊」で、同著者の『ゲンロン0　観光客の哲学』がランキングに載っていたことがきっかけでした。本学の学生であれば「観光学」を連想しそうなタイトルですが、実際には、政治やグローバリズム、原発問題から家族論まで、非常に多岐にわたる考察を「観光客」という哲学的な概念によって展開していて、新たな知見に満ちた、すばらしい読書体験をすることができました。

今回紹介する石田英敬・東浩紀『新記号論　脳とメディアが出会うとき』では、私には異なる領域に属していると思われていた諸学問（例えば人文社会科学としての哲学と、自然科学としての脳科学）を、ひとつの「記号論」あるいは「メディア論」として考察しています。大学における「文系」「理系」の問題が時々話題になりますが、そういった学問領域の違いを越えた本書での議論は、私にはとても斬新で、刺激的に感じられました。

少なくとも私は、「哲学」と聞くと難解で、敷居の高さを感じてしまいます。本書が魅力的なのは、まえがきで「この金融資本主義とソーシャルネットワークと人工知能の時代にふさわしい、新しい人文学をもういちど打ち立てる」とあるように、あくまで著者の問題意識が「いま・ここ」に向けられていることです。時として、考察が私たちの身近なものへ及ぶこともあります。本書で印象に残っているのは、「消費者として振る舞っているつもりでも、じつはSNSでは知らず知らずにデジタル労働をさせられている」という考察です。普段なにげなく行っているSNSでの情報共有・拡散を「労働」とする指摘は、私がSNSとどう付き合っていくか考える上で多くの示唆を与えてくれました。

本書はページのいたるところで私を驚かせ、好奇心を刺激してくれました。余計なことを考えていられる学生のうちに、一度、手に取ってみてほしいです。

【文化政策学部 国際文化学科 4年　山本 亮太】

『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』

エヴァ・フェダー・キテイ [著];
岡野八代 , 牟田和恵 [監訳]
白澤社 , 現代書館（発売）, 2010.9
[595.5/Me 21]

「赤ちゃん、泣いてるよ」

30年前の出産後間もない真夜中、遠くから夫の声が聞こえました。数時間おきの授乳で寝不足のため、息子が泣いているにも関わらず寝入っていた私でした。子育て以外にも、舅や姑の介護や看取りも含めて、家族をケアすることは当たり前の事であると思っていました。しかし、定年退職してから大学院で学び、社会学の文脈の中で、これまで自分がしてきたことの意味を再検討することが出来ました。

この『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』は、ゼミの森俊太教授から薦められて出会った本です。著者のキテイは、アメリカの大学教授として、哲学、フェミニズム、社会学などを教えながら、重度の知的障害を抱えた娘サーシャを育てました。

「私たちはみな誰かお母さんの子どもである」という言葉を象徴的に用いて、キテイは、依存と依存ケア労働を含めた、男女に関する正義と平等の理論を構築しようと、この本を書きました。依存は個人のライフヒストリーにおいて避けることができないとしながらも、依存労働を生命にかかわる極めて重大な、達成感に満ちた、人間的な仕事であると述べています。しかし、男女の平等が実現されないのは、必然としての依存、そして依存のケアが、正当に価値を認められず、隠されたままになっているからではないか？と、ロールズの『正義論』における依存とケアの関係の軽視についても批判しています。

私が息子を育て夫の両親の介護をしていた30年前と違い、現在は子育てや介護に取り組む男性も増えてきました。しかし、キテイが構想する平等と正義が実現される社会には、まだまだ追いついていないように思います。

ストレスを溜め感情を爆発させることもあった当時を思い出し、どういう状況の中で問題が起こったかを社会科学の観点から捉えることによって解決の方向が見えてくることがわかってきました。ですから、もっと早く読んでおけば良かったという思いから、女性だけでなく男性にもこの本をお薦めします。

【大学院 文化政策研究科 2年　磯部 志げ子】

受入図書一覧

請求記号	書 名	請求記号	書 名
002/Ki 12	1日1ページ、読むだけで身につく世界の教養365	361.5/Y 58	なぜ世界中が、ハローキティを愛するのか?
007.1/Ma 46	インスタグラムと現代視覚文化論	361.84/I 39	専門家時代の幻想（イリイチ・ライブラリー）
007.13/A 62	AI vs.教科書が読めない子どもたち	361/Y 48	社会理論としてのエスノメソドロジー
007.13/Ko 63	図解人工知能大全：AIの基本と重要事項がまとめて全部わかる	366.38/A 11	チェンジの扉：児童労働に向き合って気づいたこと
007.3/Ma 13	プラットフォームの経済学：機械は人と企業の未来をどう変える?	366.38/Sh 89	子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート。
007.3/O 15	デジタルネイチャー	367.1/Ki 79	愛の労働あるいは依存とケアの正義論
007.642/H 64	Houdiniではじめる3Dビジュアルエフェクト	367.1/Ki 79	ケアの倫理からはじめる正義論：支えあう平等
007.642/O 26	コンピュータ・グラフィックスの歴史	367.21/Sa 25	「産む」と「働く」の教科書
007.642/Sa 45	理論と実践で学ぶHoudini SOP&VEX編	367.68/Ts 77	「意識高い系」という病：ソーシャル時代にはびこるバカヤロー
010.7/G 72	図書館職員採用試験対策問題集司書もん 第1巻～第3巻	367.9/F 61	性の歴史学
016.21/Y 52	公共図書館の冒険：未来につながるヒストリー	367.9/Me 32	図説不倫の歴史：愛の幻想と現実のゆくえ
023/H 36	出版と知のメディア論：エディターシップの歴史と再生	367.9/N 76	性のあり方の多様性
024.1/B 87	本屋がなくなったら、困るじゃないか	367.9/Y 48	美貌の陥穽：セクシュアリティーのエスノメソドロジー
024/F 84	希望の書店論	367.97/Ta 87	性的マイノリティ判例解説（判例解説シリーズ）
051.7/R 12	雑誌タイトルコピー大全 女性誌編	368.4/H 48	性を管理する帝国：公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動
069.02154/N 34	地域博物館史の研究	368.4/H 77	近代公娼制度の社会史的研究
070.16/Ku 63	ジャーナリスト後藤健二：命のメッセージ	368.4/Se 27	近代日本公娼制の政治過程
104/I 72	新記号論：脳とメディアが出会うとき（ゲンロン叢書:2）	368.4/Y 91	売娼の社会史 増補改訂
131/H 53	ヘルメス文書	368.7/C 65	少年と罪：事件は何を問いかけるのか
188.8/Ta 74	The unfettered mind : writings from a Zen master to a master swordsman	369.27/H 87	共生の障害学：排除と隔離を超えて
198.2233/Ke 37	マージェリー・ケンプの書：イギリス最古の自伝	369.27/Ku 53	障害学を語る
209/Ta 78	逆転の世界史：覇権争奪の5000年	369.27/Z 5	Missing pieces : a chronicle of living with a disability
210.58/B 15/4	逸事史補/守護職小史（幕末維新史料叢書:4）	369.28/D 64	イタリア精神医療への道：バザーリアがみた夢のゆくえ
210.58/Mi 71	幕末維新変革史 上・下	369.28/Ko 12	病棟に頼らない地域精神医療論
210.7/H 91/5	最強師団の宿命（昭和史の大河を往く:第5集）	369.3/Sh 88/1	昭和二年北丹後地震(シリーズ日本の歴史災害:第1巻)
210.75/H 91	あの戦争は何だったのか：大人のための歴史教科書	371.42/Su 31	いじめ：学級の人間学 増補版
211.4/H 82	写真が語る旭川：明治から平成まで	371/Ma 81	「助力」としての教育
214.4/Mi 21	幕末の越前藩（福井県郷土新書:1）	372.1361/To 72/7	東京第二師範附属国民学校（学寮日誌編:1）
219.2/B 15	幕末佐賀藩の科学技術　上巻・下巻	375.32/Ka 47	歴史認識の違いはこうして生まれる：日中韓教科書読み比べ
219.7/Sa 68	薩藩海軍史 上巻・中巻・下巻（明治百年史叢書）	375.32/N 88	日韓で考える歴史教育：教科書比較とともに
223.1/V 85	忘れられない年月：フー・マイによる聞き書き	375.8/B 89/4	文学の授業づくりハンドブック　中・高等学校編
230.7/E 59	ヨーロッパ統合史 増補版	375.82/Ko 47	國民學校國語教育の研究
232/Mo 86	帝国を魅せる剣闘士：血と汗のローマ社会史	375.9/Mo 31	初等科國語 1～8（複刻国定教科書:国民学校期）
232/N 32	娯楽と癒しからみた古代ローマ繁栄史	375.9/N 71	文部省國民學校教科書編纂趣旨解説
234.074/Se 24	「白バラ」：反ナチ抵抗運動の学生たち	375/N 37	学級担任のためのカリキュラム・マネジメント
280.8/B 15/8	佐久間象山（歴史人物シリーズ. 幕末・維新の群像:第8巻）	376.21/O 71	国民学校とお母さんの心構へ
289.1/Ko 24	古賀穀堂先生小傳	377.9/Ko 26	就活でうつにならないための本
289.1/Y 99	子爵由利公正傳 復刻版	385.4/N 44	現代の結婚と婚礼を考える：学際的アプローチ
289.3/R 25	反ナチ・抵抗の教育者：ライヒヴァイン1898-1944	390.9/F 67	写真で見る明治の軍装
295.392/B 18	ポートランド地図帖：地域の「らしさ」の描きかた	392.1/Y 86	軍隊の対内的機能と関東大震災
302.2/Ka 62	現代アジアの統治と共生	396.211/Sh 47	旭川第七師団 改訂版
302.444/Ta 46	ガーナを知るための47章	397.21/To 79	日本海軍史（読みなおす日本史）
304/J 72	近未来予測2025：「データブック」	402.105/Ta 33	洋学思想史論：新装版
315.231/Ku 61	コミンテルン・システムとインドシナ共産党	404/Ku 54	アリエナクナイ科学ノ教科書：空想設定を読み解く31講
316.4/H 44	ジハード大陸：「テロ最前線」のアフリカを行く	481.35/H 96	動物学者が死ぬほど向き合った「死」の話
319.1022/W 44/1	心と心つないだ餃子（忘れられない中国滞在エピソード: 受賞作品集）	493.937/Mu 59	子どものこころの病理とその治療
330/H 28	経済用語図鑑	498.16/Ta 94	病者障害者の戦後：生政治史点描
332.107/O 31	円消滅!：第二の金融敗戦で日本は生き残れない	498.55/Sa 75	佐々木敏のデータ栄養学のすすめ
333.8/To 18	開発経済学入門	498/O 89	『サレルノ養生訓』とヒポクラテス：医療の原点
334.4/I 47	移民政策のフロンティア：日本の歩みと課題を問い直す	499.02/Y 98	くすりの小箱：薬と医療の文化史
334.41/Se 83	コンビニ外国人	499.39/O 89	ヒルデガルトの宝石論：神秘の宝石療法
336.1/Ko 73	ビジネスモデル2.0図鑑	499.8/H 58	聖ヒルデガルトの病因と治療
336.49/H 48	リッツ・カールトンで学んだ仕事でいちばん大事なこと	501.83/Ka 86	デザイン科学概論：多空間デザインモデルの理論と実践
338.18/O 31	お金を増やしたいなら、これだけやりなさい!	504/Ki 43	拡張の世紀：テクノロジーによる破壊と創造
345.2/Sc 2	金持ち課税：税の公正をめぐる経済史	509.5/Ka 47	小さな企業が生き残る：地域×技術×デザイン
360/Ka 95	チェンジメーカーになろう。	520.28/F 95	十二組十三人の建築家：古谷誠章対談集
361.42/Mi 75	最後はなぜかうまくいくイタリア人	520.4/N 29	建築的思考のゆくえ
361.453/H 44	マクルーハンはメッセージ	559/Mi 13	「技術」が変える戦争と平和
361.5/I 43	オタク文化と宗教の臨界	564.09/O 28	幕末明治製鉄論
361.5/I 53	アイドル工学	588.57/F 41	ラム酒の歴史（「食」の図書館）

請求記号	書 名
593.3/F 15/1	文化ファッション大系. ファッション工芸講座 (帽子 基礎編)
593.3/H 44	服部晋の製図
674/Ko 86	ここらで広告コピーの本当の話をします。
674/W 94	毎日読みたい365日の広告コピー
675.18/G 95	素材が生きるパッケージデザイン・アイデア
675/C 58	ジョブ理論 : イノベーションを予測可能にする消費のメカニズム
675/Tz	サブスクリプション : 「顧客の成功」が収益を生む新時代のビジネスモデル
687.21/Su 96	地方を結び、人々を結ぶリージョナルジェット
687.3/A 11	人もチームもすぐ動くANAの教え方
687.3/A 11	どんな問題も「チーム」で解決するANAの口ぐせ
687.3/A 11	ANAが大切にしている習慣 図解版
687.3/A 11	仕事も人間関係もうまくいくANAの気づかい
687.3/I 54	JAL再生 : 高収益企業への転換
687.3/Ko 12	JALで学んだミスをふせぐ仕事術
687.3/N 71	ANAが目指すCS : お客様と共に最高の歓びを創る 新版
687.3/Su 48	こんなに違うJALとANA
687.3/U 47	JALの心づかい : グランドスタッフが実践する究極のサービス
702.07/Ku 14	メディア・アート原論 : あなたは、いったい何を探し求めているのか?
702.07/My	バイオアート : バイオテクノロジーは未来を救うのか。
702.37/Ma 81	パトロンたちのルネサンス : フィレンツェ美術の舞台裏
702.53/P 15	バイ・バイ・キップリング
704/Sa 97	感性は感動しない : 美術の見方、批評の作法
706.919/L 62	Laura Lima
706.957/Mu 32	ブルーノ・ムナーリ
707/Ku 14	大学では教えてくれない音大・美大卒業生のためのフリーランスの教科書
709.1/O 24	アートプロジェクトの悩み
723.348/Mu 13	アルフォンス・ミュシャの世界 : 2つのおとぎの国への旅
726.107/J 52	そのまま使える男の子ポーズ500
726.107/J 52	そのまま使える女の子ポーズ500
726.107/So 45	超時短!3D背景素材集 : 部屋・住宅編
726.5/Ma 59	丸山浩ウルトラデザイン画集 (映画秘宝コレクション)
726.507/A 52	かわいいコスチュームが描ける本
726.507/F 56	美しい幻想世界とキャラクターを描く
726.507/I 99	デジタルイラストの「背景」描き方事典
726.507/Ky 1	キャラポーズ入り背景集 基本の室内・タウン・自然編
726.507/Ma 73	デジタルイラストの「身体」描き方事典
726.507/N 68	デジタルイラストの「表情」描き方事典
726.507/N 68	デジタルイラストの「塗り」事典
726.507/N 68	デジタルイラストの「塗り」事典BOYS
726.507/Sh 33	デジタルイラストの「構図・ポーズ」事典
726.507/Su 83	デジタルイラストの「エフェクト」描き方事典
726.507/Su 83	デジタルイラストの「服装」描き方事典
726.507/Z 5	CLIP STUDIO PAINTブラシ素材集 : 雲から街並み、質感まで
727.8/I 51	日本字フリースタイル・コンプリート : たのしい描き文字2100
727/B 62	Generative design : processingで切り拓く、デザインの新たな地平
727/D 54/4	デジタル背景カタログ マンション・アパート・団地編
727/I 54	あるあるデザイン
727/Q 1	land land : Q-TA collage design book
727/Q 1	lúčka lúčka : Q-TA collage art book
727/Ta 33	レトロな印刷物ご家族の博物紙
727/Ta 33	くすりとほほえむ元気の素 : レトロなお薬袋のデザイン
740.4/D 85	死ぬことと生きること [正]・続
748/A 64	写狂老人日記
748/Mo 73	犬と網タイツ
748/N 33	サーキュレーション--日付、場所、行為
749/O 27	印刷・加工DIYブック 合本完全版
757.3/Sa 47	配色アイデア手帖 : めくって見つける新しいデザインの本
757.3/W 14	配色スタイルハンドブック
757/D 97	スペキュラティヴ・デザイン : 問題解決から、問題提起へ。
757/I 54	けっきょく、よはく。 : 余白を活かしたデザインレイアウトの本

請求記号	書 名
760.69/O 65/10	音楽芸術マネジメント 第10号 (2018)
760.7/B 35	音大生のキャリア戦略 : 音楽の世界でこれからを生き抜いてゆく君へ
760.7/N 72	音大生のための就職徹底ガイド
760.7/O 91	「音大卒」の戦い方
760.7/O 91	「音大卒」は武器になる
761.13/N 37	音楽をひらく : アート・ケア・文化のトリロジー
762.05/B 67	バロック音楽を読み解く252のキーワード
762.05/Mo 41	バロックの音楽世界 : テキスト、図像による新たな体験
762.155/N 27	藤井知昭著作集:第11巻～第13巻 (名古屋音楽史)
762.34/St 8	第三帝国のR.シュトラウス : 音楽家の「喜劇的」闘争
762.349/C 53	ショパンの楽譜、どの版を選べばいいの?
762.35/N 22	現代フランスの音楽事情
762.8/B 21	「亡命」の音楽文化誌
767.8/Ta 84	AKB48とニッポンのロック : 秋元康アイドルビジネス論
770.4/B 61	被抑圧者の演劇
771.7/Sa 75	日本の演劇教育 : 学校劇からドラマの教育まで
771.7/To 58	日本演劇教育史
778.04/I 81	オーバー・ザ・シネマ : 映画「超」討議
778.3/Ku 76/4	七人の侍 (黒澤明MEMORIAL10 : 第4巻)
778.77/U 77	母性のディストピア
778.8/N 87	ラジオドラマの黄金時代
779.1/Ko 45	大研究落語と講談の図鑑
779.12/A 12	伝統話芸・講談のすべて
779.12/Ka 51	絶滅危惧職、講談師を生きる
780.19/Te 43	スポーツ栄養学 : 科学の基礎から「なぜ?」にこたえる
783.47/C 22	英国人から見た日本サッカー : “摩訶不思議"ニッポンの蹴球文化
783.47/O 22	セルティック・ファンダム : グラスゴーにおけるサッカー文化と人種
783.47/O 98	メスト・エジル自伝
783.47/U 96	フットボールの犬 : 欧羅巴1999-2009
801.04/Mo 24	認知言語学入門
810.13/Ku 17	日系移民社会における言語接触のダイナミズム
810.4/H 41	からだ言葉・こころ言葉
810.7/Ts 94/1	「大学生」になるための日本語 1
816.2/Ta 81	比喩論
818.97/I 79	鹿児島弁辞典
830.7/C 45	バイリンガルな日本を目指して
837.8/Si 1	ホームステイの英会話リアル表現book
837.8/So 55	英会話日常表現大辞典10000+
901.9/A 59	翻訳地帯 : 新しい人文学の批評パラダイムにむけて
910.268/D 49/2	仮面の辻音楽師 (太宰治:2)
910.268/Mu 43	村上春樹読める比喩事典
910.268/Mu 43/7	村上春樹「物語」の認識システム (Murakami Haruki study books, 7)
911.1351/Ka 81	古今和歌集の研究
913.6/A 32	箱の中の天皇
913.6/D 49	女生徒 (乙女の本棚)
913.6/H 66	マチネの終わりに
913.6/Mu 43	バースデイ・ガール
913.6/O 87	夏と花火と私の死体
913.6/Su 73	戦場のレビヤタン
913.6/Y 81	すべての鳥を放つ
914.6/W 17	さよなら未来 : エディターズ・クロニクル2010-2017
915.6/Ka 28	旅人の表現術
916/Mi 95	水木しげるのラバウル戦記
916/Sh 23	まなざしが出会う場所へ : 越境する写真家として生きる
932.5/Sh 12	シェイクスピアのワイン
961/J 51	プラテーロとわたし : 新装版
977/A 31	抱腹!!イタリアン・ジョーク
992.1/V 81	アエネーイス

(計 254冊)

科学に関する展示と、その関連イベントとしてミニレクチャーとワークショップを実施しました

科学に関する展示について

「科学」は、我々の生活を明るく照らし、我々が抱える課題に立ち向かうための力を与えてくれます。図書館では、学生が「科学」に興味を持ち、理解を深めることができるように、様々な機会を提供したいと考えています。

このような趣旨から、2019年の3月から6月にかけて、図書館内の展示スペースを活用して「電磁波」をテーマとする展示を行いました。「電磁波」は、電波、光、紫外線、X線等、波長によって様々な振る舞いを見せる不思議な存在ですが、我々の暮らしに深い関わりを持ち、我々にとってなくてはならない存在とも言えます。電磁波の波長を縦軸に、人類の歴史を横軸にして、電磁波に関する様々なトピックスを、約７mの横幅の図表に配置しました。この図表の作成には、静岡大学電子工学研究所の三村秀典教授と浜松医科大学光尖端医学教育研究センターの針山孝彦特任教授に監修をお願いしました。図表を見て興味を感じたポイントについて、さらに詳細を調べることができるように、図書館の蔵書から「電磁波」に関係する書籍50冊を選び、自由に閲覧できるように図表の前に陳列しました。

この展示に関連して、高校生と大学生約20名を対象に、ミニレクチャーとワークショップからなるイベントを5月11日に実施しました。参加者はレクチャーを受講した後に、電磁波に関するトピックスを自分で選び、図書館の蔵書等を利用して調査を行い、講師のアドバイスを参考にして説明文章と図を作り、横長の図表の中に新たな項目として貼り付ける作業を行いました。

このイベントの参加者や、本展示に接した多くの来館者から好評を得ることができました。今後も図書館において、科学に関する様々な展示を企画していきたいと考えています。

静岡文化芸術大学 デザイン学部 教授
図書館・情報センター長
的場 ひろし

展示物の全景

書籍の展示

ミニレクチャー・ワークショップ（5月11日実施）

ユニバーサルデザイン絵本コンクール2019 作品募集のお知らせ

ユニバーサルデザインを理念の一つとしている本学では、2010年からユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催しています。ユニバーサルデザイン絵本とは、身体的・知的特性、年齢、文化などを超えて皆が一緒に楽しむことのできる絵本、互いを理解し、共に生きていく社会につなげる絵本です。

2019年も、ユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催します。形、構成、素材などにとらわれることなく、自由な発想で絵本をつくってください。皆さんからのご応募をお待ちしています。

【募集内容】　ユニバーサルデザイン絵本
【募集期間】　2019年9月1日～2019年10月21日　（当日消印有効）
【募集要項・応募票】　以下のWebサイトからダウンロードすることが出来ます。
https://www.suac.ac.jp/
【応募先・問い合わせ】　お問い合わせは、なるべくメールかFAXでお願いします。
〒430-8533　静岡県浜松市中区中央二丁目1-1
静岡文化芸術大学　UD絵本コンクール事務局（林 左和子研究室）
Tel & Fax 053-457-6178　　e-Mail：ehon@suac.ac.jp

昨年度受賞作品

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C021550